

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会  
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日 時 令和2年2月27日(木) 午後4時10分～午後5時50分
- 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町  
鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町  
鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 28人  
〈鳥取県健康会館〉  
渡辺健対協会長、廣岡部会長、山口委員長  
岡田・瀬川・尾崎・前田・丸山・高橋・大久保各委員  
オブザーバー：永松鳥取市保健師、松本岩美町主任、森下智頭町主任保健師  
田中八頭町主任保健師  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：山本課長補佐、宮脇保健師  
健対協事務局：岩垣課長、澤北主事  
〈鳥取県中部医師会館〉林・坂本各委員  
オブザーバー：田中倉吉市保健師  
〈鳥取県西部医師会館〉小林・工藤・清水・角・鈴木各委員  
オブザーバー：小林米子市主任保健師、奥田米子市保健師

【概要】

- ・平成30年度実績は、受診者数、受診率ともに、概ね前年度実績並みであった。要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度の全てにおいて国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。
- ・平成30年度の乳癌確定症例は60例であった。前年度の72例に比較して減少していた。中部地区症例の増加、米子市での減少が目立った。  
発見癌患者の平均年齢は62.5歳で前年度とほぼ同様であり、60歳代の患者が多かった。一般的な乳癌罹患数の多い年代より平

均年齢は高齢である。

- ・各地区読影会実施報告（令和2年1月末現在）は、CAT3以上が東部4.17%、中部9.18%、西部6.40%で、中部が高く、これは例年通りである。
- ・乳がん検診実施に係る手引きの一部改正について、精密検査結果について、日本乳癌学会「乳がん検診精検報告書作成マニュアル」に沿って記載することとなり、山口委員長より乳がん検診受診票の修正案が示され、内容について検討。カテゴリー9（自覚症状あり）が新たに追加となったが、その記載や取り扱いについては協議が必要であり、令和2年度夏部会において複数案を

提示し改めて検討することとなった。読影委員会でのモニター読影の導入を受け、手引きの文言もモニター読影ができるよう本文の修正案が示され、了承を得た。

## 挨拶（要旨）

### 〈渡辺会長〉

お忙しい中、新型コロナウイルス感染症の対応で、会議の開催の可否の議論がなされ、なかには、中止される会議もあるなかでお集まりいただき、感謝申し上げます。

鳥取県医師会及び鳥取県健康対策協議会で共通して、会議開催の基準を作っている。不特定多数であるとか、50名以上が参加する会議は中止しているが、医療福祉関係者、行政担当職を対象とした専門的な議論を行う必要がある会議については、TV会議システムを活用して、一つの会場に集中しない形で開催は可能としている。

よって、本委員会、土曜日に予定されている肺がん対策専門委員会は、開催することとしている。

鳥取県のがん罹患率、75歳未満年齢調整がん死亡率は全国的にも高い状況である。健対協の各がん対策専門委員会においても、それぞれで精査して頂いている。検診の重要性に立ち返って、色々な施策の提言や、生活習慣を含めた幅広い原因の追究等を行っていただいている。

本日は、廣岡部会長、山口委員長の下で、鳥取県の県民の健康増進につなげていくよう幅広い議論をお願いします。

### 〈廣岡部会長〉

日本中で、新型コロナウイルス感染者が出ているなか、お集まりいただき、ありがとうございます。鳥取県のがん死亡率は少し改善されたようですが、依然としてよろしくないで、今後も、乳がん対策が重要である。

本日は、特に、乳がん検診精検報告書作成マ

ニュアルが出たので、それに準じて、鳥取県の乳がん検診手引きを一部修正できればということで、山口委員長にたたき台を作って頂いた。それを実施するかどうかは議論の必要があるが、ご意見を頂けたらと思うところである。

### 〈山口委員長〉

日頃より、乳がん対策にご協力賜り、感謝申し上げます。

先程、廣岡部会長からもお話がありましたが、乳がん学会から、検診に関わるガイドラインが新しく出され、それに基づいて、今後の体制について検討する必要がある。1年間ぐらい、時間をかけて話し合っていけたらと思うところである。協議の程、よろしく願います。

## 報告事項

### 1. 平成30年度乳がん検診実績最終報告並びに令和元年度実績見込み及び2年度計画について〈県健康政策課調べ〉：

宮脇県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

〔平成30年度最終実績〕

平成30年度対象者数115,469人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数19,075人、受診率16.5%で、平成29年度より0.2ポイント減少した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数44,660人、受診者数14,064人、受診率31.5%であった。

要精検者数1,140人、要精検率5.98%で前年度より0.41ポイント増加した。精検受診者数1,064人、精検受診率は93.3%で、平成29年度より2.7ポイント減であった。

精検の結果、乳がん60人、がん発見率（がん／受診者数）0.31%、陽性反応適中度（がん／要精

検者数) 5.26%であった。がん疑いは1人発見された。平成29年度に比べ、がん発見率は0.07ポイント、陽性反応適中度は1.6ポイント減少した。

平成30年度実績は、受診者数、受診率ともに、概ね前年度実績並みであった。要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度の全てにおいて国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

[令和元年度実績見込み及び令和2年度計画]

令和元年度実績見込みは、対象者数115,469人、受診者数20,439人、受診率17.7%で、前年度より約1,360人増加する見込みである。令和2年度実施計画は受診者数21,078人、受診率18.3%で計画している。

〈地域保健・健康増進事業報告より〉厚生労働省ホームページで公開

参考資料として、国が示した「がん検診のためのチェックリスト」を用いて本県の精度管理に活用することとし、健対協で把握できないチェック項目リストのうち国がホームページで公開している項目(検診受診歴〈初回・非初回〉別の要精検率等、偶発症の有無、精検未把握率)について、平成28年度実績報告が提出された。

要精検者のうち、精検受診の有無がわからない者及び(精検を受診したとしても)精検結果が正確に把握できていない者の精検未把握率は、国の許容値は10%以下である。鳥取県は平成28年度2.26%で許容範囲内であった。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：大久保委員

- ・平成30年度実績は住民検診受診者数8,286人で平成29年度より89人減少した。年代別では50～69歳が238名減少、逆に70～79歳で173名の増加となった。
- ・要精検率6.22%、がん発見率0.33%、陽性反応適中度5.24%
- ・乳がん27例であった。

- ・そのうち、初回受診での発見乳がんは15名、病期Ⅲ1名は初回受診であった。病期Ⅳ以上の発見はなかった。
- ・MMGカテゴリー別では、C-3からの発見が12例、C-4で9例、C-5で6例であった。C-5と判定された6名全員が乳がんという結果であった。両側乳がんが1例あった。
- ・年齢階層別では55～59歳、60～64歳での発見が多かったが、平成30年度では、特に受診者数増加がみられた70～74歳での発見が多かった。

## 2. 平成30年度乳がん検診発見がん患者確定調査結果について：山口委員長

- ・平成30年度の乳癌確定症例は60例であった。前年度の72例に比較して減少していた。中部地区症例の増加、米子市での減少が目立った。
- ・発見癌患者の平均年齢は62.5歳で前年度とほぼ同様であり、60歳代の患者が多かった。一般的な乳癌罹患数の多い年代より平均年齢は高齢である。
- ・初回検診患者での乳癌発見例が多く、初回患者の掘り起こしが重要であると考えられる。
- ・病期に関しては、61.7%が早期癌症例であった。50歳代では、他の年代より早期癌症例が少なかった。StageⅣ症例は認めなかった。
- ・術式に関しては、従来は乳房部分切除(乳房温存)が多かったが、平成30年度は乳房切除術が過半数であった。全国でも同様な傾向である。

## 3. 地区症例検討会等について

令和元年度各地区読影会実施中間報告(1月末)は以下のとおりである。

東部(山口委員長)－東部医師会館を会場にして、週2回読影会を開催している。

- ①読影会開催回数111回、②読影総数3,594件、③うち比較読影2,455件(68.3%)

令和2年1月20日に要精検症例を集めた読影委員症例検討会を開催し、参加者13名であった。また、乳がん検診マンモグラフィ読影委員会は3月

12日に開催する予定である。

中部（林 委員）－中部読影会場にて、週1回読影を行っている。

- ①読影会開催回数33回、②読影総数1,034件、③うち比較読影1,011件（97.8%）

症例検討会は3月7日に予定している。

西部（鈴木委員）－西部医師会館を会場にして、週2回読影を行っている。

- ①読影会開催回数50回、②読影総数1,706件、③うち比較読影1,282件（75.1%）

症例検討会は3月12日に開催する予定である。

[読影結果]

	CAT1	CAT2	CAT3	CAT4	CAT5
東部	94.63%	1.20%	3.67%	0.39%	0.11%
中部	86.37%	4.45%	8.70%	0.48%	0.00%
西部	86.92%	6.68%	5.63%	0.59%	0.18%

#### 4. その他

(1) 平成30年75歳未満がん年齢調整死亡率：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐報告

国立がん研究センターが平成30年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、平成30年は72.2（昨年86.0）で、過去最も低い値（良化）を記録。都道府県別順位は平成29年度のワースト2位（46位）からワースト18位（30位）と改善。

女性の死亡率は改善し51.7となり、全国値56.0以下（良化）となった。

乳がんの死亡率9.3（14位）で、昨年度ワースト6位から改善された。

(2) 令和2年度がん関係予算：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐説明

令和2年度の新規事業としては、「放射線治療提供体制強化事業」として、県内の放射線治療の診療体制及び放射線治療専門医の育成体制を強化するため、鳥取大学医学部附属病院が放射線治

療専門医を増員配置する経費を助成する。また、「市町村と連携して行う胃がん対策事業」として、胃がんの発症リスクの低減等を図るため、市町村が胃がん対策として実施するピロリ菌等検査の検査費用を助成するという説明があった。

#### 協議事項

##### 1. 乳がん検診実施に係る手引きの一部改正について

○精密検査結果について、日本乳癌学会「乳がん検診精検報告書作成マニュアル」に沿って記載することとなり、山口委員長より乳がん検診受診票の修正案が示され、内容について検討。

乳腺の評価は読影・評価の上に配置した方がよいとの意見あり。カテゴリー9（自覚症状あり）が新たに追加となり、問診で自覚症状がある場合は要精検とするか、自覚症状に「痛み」を追加するか、指導区分でどのように分類するか等、その記載や取り扱いについては協議が必要であり、廣岡部会長、山口委員長で2～3案を作成していただき、令和2年度夏部会において複数案を提示し改めて検討することとなった。

○読影委員会でのモニター読影の導入を受け、手引きの文言もモニター読影ができるよう本文の修正案が示され、了承を得た。

##### 2. 乳がん検診マンモグラフィ読影委員会運営要領の一部改正について

乳がん検診マンモグラフィ読影委員会でのモニター読影の導入を可能なところから開始することを受け、運営要領の文言にもモニター読影ができるよう本文の改訂案が示され、了承を得た。

##### 3. 事業評価のためのチェックリスト（検診実施機関用）について

検診の精度管理指標として国立がん研究センターが示しているチェックリストについては、精度管理として国から要求されている項目を周知す

ることを目的に、検診機関に配布することとなった。回答は求めないこととされた。

#### 4. 乳がん検診一次検査医療機関及び精密検査医療機関登録更新について

鳥取県乳がん検診一次検査医療機関及び精密検査医療機関登録については、3年に一度更新を行うこととなっており、現行の要綱どおり、今年度中に更新及び新規登録することとして了承を得た。

#### 5. その他

##### (1) 令和2年度乳がん検診従事者講習会及び症例検討会について

令和2年8月頃に中部で行うこととなった。講師の選定等は林委員にお願いすることとなった。

##### (2) 研修会等の受講受付方法の変更について

岡田委員より、鳥取県医師会においては、令和2年4月より研修会等の受講受付方法（生涯教育単位管理）が変わり、従来、紙媒体で行っていた受講確認（名簿への署名）を、電子媒体を利用したICカードもしくはQRコードを専用機器で読み取り受講管理を行うことになる。令和元年度中に周知文書を全会員へ発送予定。開始時と終了時の受付を行うので、時間設定を設けるのか、また、鳥取県医師会非会員の取り扱いをどのように行っていくのか、部会ごとに意見を伺い、総合部会で方向性を決めたいという話があった。

##### (3) 個人情報提供申請について

岡田委員より学会発表等で各検診発見がん確定調査の個人情報提供を受けられたい時は、鳥取県知事宛に個人情報提供申請書を提出していただくようにという話があった。